

(別記)

## 2019年度亀山市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が高く、転作作物については小麦、飼料用米、大豆の面積が多く、一部地域ではブロックローテーション方式での集団転作を実施している。

しかしながら、今後さらに主食用米の需要が減少する中で、需要のある作物や高収益作物への転換を図る必要がある。また、農家の高齢化などにより、不作付地の拡大や後継者不足などの課題もあり、中山間地域においては、獣害も深刻な問題となる中、いかに水田面積を維持するかが課題となっている。

### 2 作物ごとの取組方針等

市内の約1,140haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

#### (1) 主食用米

需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、需要に応じた米の計画的生産を促進し、価格の安定に努める。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

水稻以外に作付が適さない水田については、転作作物として飼料用米の作付を推進し、さらに多収品種の導入による生産性の向上を図る。

##### イ 米粉用米

主食用米の需要減が見込まれる中、小麦代替用として需要が高まっていることから作付けを推進し、さらに多収品種の導入による生産性の向上を図る。

##### ウ 加工用米

当該地域の加工用米は、集出荷団体との契約を中心に生産を行っており、近年、需要が高まっているところである。多収品種の導入による生産性の向上を図る。

##### エ わら利用（耕畜連携）

耕種農家と畜産農家が連携することにより、互いが利益を追求し、両者が安定した経営の維持と発展を目指すため、利用供給協定に基づく取組面積の拡大を図る。

### オ 新市場開拓米

主食用米の需要が減少する中、内外の米の需要を新しく開拓する必要があり、多収品種も含めて取組を推進する。

#### (3) 麦、大豆

県内需要の高い小麦については、団地化及びブロックローテーションの推進により、低コスト化を図りつつ、種子消毒による病害防除、排水対策（弾丸暗渠、畝立播種等）により単収向上を図る。大豆についても県内の実需者からの需要が高いことから、二毛作により農地の高度利用を図り、さらに品質向上及び単収向上により農業者の所得向上を図る。

#### (4) そば、なたね

鳥獣の被害が少ない作物であるため、新規生産者の発掘に努め、中山間地域での作付面積の拡大を図る。また、農地の高度利用を図るために二毛作を推進する。

#### (5) 高収益作物（野菜、永年性作物の新植等）

地元の需要に応じた販売を目的とした生産に取り組めるよう、直売所などによる地産地消の推進を図り、さらに作付面積の拡大・生産性の向上に努める。

#### (6) 畑地化の推進

主食用米の需要の減少傾向が続く中、農地の排水性の改善や集積等に計画的に取り組むためにも、地域における効率的な土地利用にも配慮しつつ、畑作物の本作化を推進する。

## 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	707.1	711.0	709.0
飼料用米	28.4	33.0	35.0
米粉用米	2.0	2.0	2.2
新市場開拓用米	0.0	0.1	0.3
WCS用稲	0.0	0.0	0.0
加工用米	0.8	2.4	2.6
備蓄米	0.0	0.0	0.0
麦	70.5	72.0	74.0
大豆	23.6	24.0	26.0
飼料作物	1.0	1.2	1.4
そば	0.8	0.3	0.5
なたね	0.0	0.1	0.3

その他地域振興 作物	36.6	50.0	54.0
野菜	12.4	15.0	17.0
その他	24.2	35.0	37.0

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	小麦	麦の単収向上	単収 取組面積	(2018年度) 275 kg/10a 70.1ha	(2020年度) 278 kg/10a 72ha
2	大豆	大豆（二毛作）の 品質向上	二毛作面積 品質改善活動 実施率 単収向上	(2018年度) 22.2ha 100% 37 kg/10a	(2020年度) 23.0ha 100% 140 kg/10a
3	わら専用稲・飼 料用米	耕畜連携による わら利用	農地の高度利用 取組面積	(2018年度) 13.5ha	(2020年度) 14.0ha
4	畑地化	畑地化の取組	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.3ha
5	高収益作物	高収益作物	取組面積	(2018年度) 1.6ha	(2020年度) 2.3ha
6	飼料用米	飼料用米助成 （多収品種以 外）	取組面積	(2018年度) 20.6ha	(2020年度) 25.8ha
7	飼料用米	多収品種導入	取組面積	(2018年度) 7ha	(2020年度) 7ha
8	そば	基幹	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.03ha
9	加工用米・新市 場開拓米	多収品種導入	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.25ha
10	米粉用米	多収品種導入	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.25ha
11	そば	二毛作	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.27ha
12	新市場開拓米	基幹	取組面積	(2018年度) 0ha	(2020年度) 0.25ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

## 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり